

編集・発行
天台宗 東圓寺
電話：84-4114
Fax：84-4104

東圓寺だより

平成22年 春彼岸号

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、日ごと春めいてきました。各地からは桜の便りが聞かれるこの頃です。間もなく忍野の里も桜で彩られることでしょう。さて、檀信徒の皆様にはお変わりもなくご健勝のこととお喜び申し上げます。常日頃より皆様の菩提寺、東円寺に対しての暖かいお心遣いやご協力に、衷心より感謝申し上げます。これからも住職・檀徒総代をはじめ檀徒の皆様と協力して、お寺のさらなる発展を目指し努力を重ねますのでご支援宜しくお願い申し上げます。

初不動交通安全祈願大護摩厳修

一月二十八日 不動尊縁日

恒例の初不動交通安全・厄除け祈願祭が、富士吉田警察署の署長さんを始め、富士吉田地区交通安全協会々長、忍野村の交通安全協会の役員さん、各種団体の方々や檀信徒の皆様との参列のもと、今年も盛大に行われました。皆さん、それぞれの願いを護摩木に込めてお祈りしました。

お不動様の御利益でしょうか、こゝ忍野村では交通事故故ゼロの日が、三千日以上も続いています。ありがたいことです。

東円寺にあるお不動様は、江戸時代までは富士山の「合目」、鈴原大日堂に安置されていましたが、明治の廃仏毀釈の時に、富士山より下ろされて、東円寺に祀られました。古来より、富士修験者や富士講の人々に信奉されてきた、靈験あらたかなお不動様です。

祈願祭は毎年一月二十八日ですが、祈願用の護摩木はいつでも用意してあります。本堂の中のお不動様の所にありますので、ご自由に願いを書いておいて下さい。ある程度集まったら御炊き上げ祈願を致します。

東円寺子育て地藏尊大祭とオカリナ演奏会のご案内

日時 4月24日午前11時より
会場 東円寺境内 桜の木の下

合掌

恒例の東円寺子育て地藏尊のお祭りが4月24日に行われます。今年も地藏供養の後でオカリナの演奏会を開催します。檀家の方々ばかりでなく、多くの皆様のご参拝をお待ちしております。また、軽食代及びお抹茶代として、500円ご喜捨して頂きたいと思っております。宜しくご理解の程お願いいたします。当日は、バザーも計画しています。売り上げ金は昨年同様、図書館に寄付して子供達の図書費に充てたいと思っています。多くの皆様のご協力をお願いします。



東円寺の行事改正について

※お会式

江戸時代の頃は、檀家は忍草村だけでした。人口も少なく、村祭りの行事の一つだったと想像します。江戸時代から明治・大正時代の、行事ごとの収支台帳が残っています。全檀家が参加していました。しかし、戦後、農地解放のため、東円寺の収入は激減します。また、食糧難もあり、村中の人に食事を振る舞えなくなりました。苦肉の策で、院号の家を一族の代表と考えて、お会式（先祖供養）をしたようです。戦後60年を迎えて、豊かな時代を迎えましたが、案内状を出した院号の家の参加は半分でした。供養料を5000円持ってきていただき、半日の時間を費やします。参加して下さっている方は、先祖供養という尊い気持ちで来て下さっていますが、同じ院号でありながら、供養料を払わず時間を費やさず、これではご先祖様に対して、公平ではないと思います。また、考えてみれば院号も居士も信士の家も、それぞれにご先祖様はいらっしゃいます。

本堂の裏堂に、各檀家のご先祖様のお位牌が祀られています。そのお位牌は安置されたままで、子孫が手に取る機会がないことに気づきました。そこで、お会式（先祖供養）の時に位牌の掃除をしてもらえば、ご先祖様も喜んで下さるだろうという話になりました。総代長と世話人さんとの話し合いを重ねて、現在のお会式のスタイルになりました。

※荒神払い・お盆柵経

東円寺に残されている、江戸時代から明治・大正・戦前の台帳を見ますと、各家庭で、お盆やお彼岸になるとお寺に付け届けをしています。（米やトウモロコシ、団子、中にはお金など）戦後、暮れの集めっこは、全檀家がお金で納めることになりました。このことを取り決めた総代長も世話人さんも亡くなっているので、事実は分かりません。時代と共に、貨幣価値も変わりましたが、集めっこの金額は決めた当時のままです。昭和30年代までは、忍草地区でも柵経や荒神払いにはお布施を頂いていました。

その後、吉田や山中、県外など、村以外に分家する家が出てきました。村以外の檀家も、忍草の檀家も集めている仏参金の額は同じです。村以外の檀家では、お盆の柵経に行くと必ずお布施を下さいます。荒神払いに行くことはありません。このことについても、ご先祖様に対して公平ではないと感じます。ご先祖に対する思いは、それぞれだと思います。荒神払いもお盆の柵経も強請ではなく、それぞれの家の先祖に対する気持ちを尊重して、頼まれた家には伺って、お払いと柵経をしています。

※法事後の食事について

住職としては、法事をしたすべてのお宅で、食事をさせて頂きたいのですが、一度に2軒3軒と食事を残さず頂くことはできません。11時法事の予約の方を優先しています。しかし、四十九日忌や上野原の檀家の急な法事などもありますので、11時の方でも食事ができないこともあります。ご理解頂きたいと思います。

造像700年記念 東円寺聖観音像安置 観音堂再建基金 浄財寄進者芳名

2017年竣工予定、観音堂再建基金として下記の皆様から浄財を寄進して頂きました。

金50万円 天野貞夫殿 渡辺静泰殿

金30万円 大森国生殿 長田敏朗殿 天野和男殿 大森秀夫殿

金5万円 茅ヶ崎市・大森真知子殿 東円寺寺庭真実子

金1万円 東京・大森修平殿 小泉正子殿 有難うございます。

東円寺 第42世 慈誠代 10年の歩み

先代、慈円が遷化してから11年が経ちます。振り返る余裕などなく、ただ夢中で寺の発展のために努力してきました。ここで振り返ってみたいと思います。

平成11年11月11日 東円寺 代41世 慈円 遷化

平成12年 1月19日 天台座主 渡辺 恵進大僧正より東円寺住職に任命される

平成12年から平成17年 檀徒総代長 渡辺伊佐男氏

※晋山記念事業 離れ（宗教法人東円寺名義）・庫裡台所改築工事

平成13年 ※新世紀記念 東円寺再建320年記念事業

【灯籠を寄付していただき、お地藏様の移動など景観整備をしました。】

平成14年 ※東円寺管理地小作料（地代）変更の話し合い

【法改正により旧東円寺所有地の一部が区有地となりました。また、廃仏毀釈後、江戸時代よりの慣例として、秋祭りは東円寺が執り行うこととなり、境内のまわりの区有地を地代にあてることになりました。昭和40年代から地代の変更はなく、忍野村の標準と比べ低いことから、総代会議にて、小作人の皆様にもご理解をいただき変更しました。】

※旧忍草保育園 園舎解体工事・東円寺檀信徒会館建設に対する要望書を区会に提出

【景観整備していく中で、旧忍草保育園園舎の老朽化が目立ってきました。また、時期を同じくして、斎場で行う葬儀が増えてきました。伊佐男総代長は、そのようなことになれば、忍草にお金が落ちなくなると懸念していました。各檀家から、寄付をお願いしようという案もありましたが、伊佐男総代長は、忍草区の公的資金を補助してもらい建設しようと思いました。檀家の皆さんの負担軽減になると考えていたようです。しかし、ご理解いただけず、この年から伊佐男総代長が亡くなられるまでの4年間、毎年、区に要望書を出しましたが、その都度返されてきました。】

平成15年 ※無縁仏のお堂を建設

【この年は、身元不明のご遺体が2名ありました。身元不明の遺体は、身元が判明しない場合、遺体の見つかった市町村で保管しなければなりません。また、身元が判明する可能性もありますので、粗末な扱いはできないと言うことで、東円寺に依頼があり、今後の事も考慮して小さな納骨堂を、村負担で建てることになりました。】

平成18年 檀徒総代長 長田 清春氏

【この年は、東円寺の世話人が3月まで決まらず、お彼岸前にやっと決まりました。】

平成19年から平成20年 檀徒総代長 渡辺 長敏氏

平成19年 ※旧忍草保育園園舎解体に対する要望書を区会に提出

【旧園舎を壊して、駐車場にしたい旨の補助申請を区会に提出しましたが、受理されず、平成20年にも、同様の書類を区会に提出しましたが、なかなか難しいと言うことで、この年以後は申請をしませんでした。】

平成20年 ※防音工事（庫裡・台所増築）

【東円寺檀信徒会館の建設は、なかなか難しいという結論になり、お会式や、本堂を使つての葬儀に対応していけるように、増築工事をしました。】

平成21年 ※庫裡・寺務所増築

【最近は、勤めに出ていて、留守のお宅が多く、暮れの集めっこの集金は、何度も足を運びます。お休みの朝早く、また、夜遅く来られることも迷惑だと思います。集めに行く方も大変です。お彼岸やお盆には皆さん必ずお墓参りに来ますので、お墓参りの時に、納めていただければ、世話人さんの苦労が軽減されます。そこで、今までに寄付して頂いた祠堂金を利用して、春・夏の彼岸やお盆に世話人がお寺に詰めている事が分かる場所に寺務所を造りました。今回増築した寺務所は、戦前今の場所にありました。】

平成22年 ※区会臨時総会にて、旧保育園園舎解体工事の補助決定

【2月の区会臨時総会において、旧保育園園舎解体工事の費用を区会から補助していただけることになりました。その話し合いの中で、檀家の要望を聞いてほしいと、以下5項目を、総代長が、区会から申し入れられました。1,集めっこの金額減2,荒神払い・お盆棚経のお布施は出さない3,葬儀・法事の送り迎えをやめる4,葬儀のお布施の減5,解体工事後、駐車場以外は使わない。東円寺としては、この項目を開き入れることはできません。すべてに理由があるからです。聞き入れられない旨をお伝えしましたが、解体して駐車場にしてくださいそうです。

しかし、東円寺としては、様々な行事がありますので、建物が無くなることは行事に影響がでます。また、仏具などの寄付で購入した物の保管も困ります。このことについて、檀信徒の皆様のご意見ご感想をお待ちしています。今後とも、ご理解を頂きまして、ご協力をお願いいたします。】

寺慶のつばやき

檀信徒の皆様には、平素より東円寺に対しまして、暖かなご支援ありがとうございます。今年も4月24日（土）午前11時より、東円寺子育地藏尊大祭とオカリナの演奏会を予定しています。今年も、神奈川県平塚の妙円寺の奥様もお手伝いください。インド子供基金のバザーと東円寺のバザーの開催と、今年は、アフリカのウガンダでボランティア活動をしている奥様が、現地の子供達と作ったストラップを持って参加してくれます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

今回は、薬師寺管主を勤められた、高田好胤和尚が出版されている本の中から、『おかげさま。』と言う題で書かれた文章を紹介させていただきます。

日本人の宗教的な土壌は何だろうかと言われれば、一言でいえば「おかげさま」ということになるのではないかと私は思います。漢字にすればお蔭様で、神仏のお加護という意味を持っています。初めての、会うた事のない人でも、「おかげさまで」とよくいわれます。つまり、この「おかげさま」がなにに感謝しているかといえば、それとは意識していませんが、神や佛、世間様への感謝の気持ちなのです。お蔭さまなしに、天地自然のお恵みをいただかなくて存在している人など、誰一人おりません。一瞬一瞬、一刹那一刹那がそうです。

【生きていきたくて逝くヒント】より

東円寺のホームページ（[東円寺]で検索してください）にも、時々紹介させていただいています。忘れてしまっている、祖父母から受け継がれてきた、生きるための知恵を思い出せたらと思っています。